



ささえるだより

12月号 2020. Dec vol.20

おひさしぶりの発行です。kie

2020年も残りわずか。あっという間の一年でしたが、今年はどうな年になったのでしょうか。今回は3診療所の事務っ子が、今年の来事を振り返ってみました。

岩見沢 診療部 事務次長 柿本 紀恵

5月に笹川（写真左）が加わり、6月に前田（写真右）が産休・育休に入り、岩見沢診療部は3人体制となりました。入社まもない笹川は、1週間で訪問診療同行の独り立ち。相馬は、入社2年目となり指導する立場になり、柿本（写真右から2番目）はささえる5年目となり現場の教育に精進してきました。一人一人が「互譲互助」の気持ちを意識しながら、取り組んできた一年となりました。（互譲互助とは、人のために汗をかく・お互い様という気持ちでの助け合う・人の幸せを喜ぶことができる・相手を思って譲ることができると言った精神です。）

来年の課題は多職種連携を強化することです。「治す

医療から支える医療へ」を意識しながら、様々な職種の人と繋がっていき、一緒に地域を支えていくということに基点をおいていきたいと考えています。



旭川 診療部 事務次長 伊藤 亜美

今年は今までとは違った緊張感の中で業務に取り組まなくてはならない大変な1年であり、みんなで新型コロナウイルスの感染対策を徹底してきました。また、それに伴って外来の患者様に大人気であった、暮らしの保健室が中止となってしまいとても残念でした。今までは当たり前のように集まって談笑することが出来ていましたが、それが出来なくなったことで寂しさを感じ、改めて「地域交流の場」の大切さを感じました。

また、今年最後には部署移動などもあり、一人一人がスキルアップを意識して取り組んできた一年となりました。

来年も、学び・挑戦し・支え合いながら取り組んでいきたいと思います。

北広島 診療部 事務次長 山岡 智美

今年は、【挑戦】の一年でした。お家で過ごしたいという気持ちを持った地域の方々へ向けて、毎日試行錯誤しながら在宅生活のお手伝いをしてきました。看護に加え、居宅も立ち上がり、皆で悩み連携しながら、患者さんのお家での生活をサポートできたことはそれぞれの自信に繋がったと思います。事務としては各々の長所を更に伸ばす事ができた一年となりました。

来年はきたひろでもさらなるワークシェアリングの強化を課題に、自分の出来る事を相手に【自ら】教え、発信していく。自分がいなくても安心してまわる仕組みをそれぞれが今一度振り返り、きたひろでも3本の矢の精神で来年度も駆け抜けていきたいと思います。



事務統括コーチ・事務長 博田 彩奈



私は、3診療所の総勢12人の事務統括コーチを担っています。今年は、去年入社したスタッフの教育とともに、どう進んでいくかを、見守り・一緒に考えた一年となりました。同じ法人といっても、岩見沢・旭川・北広島の3診療所それぞれに特色があります。違う中でも、業務に対して大切にしていることを私から事務次長に伝え、それぞれの診療所で「どうしていくべきか」を、事務次長にはたくさん悩み、考えてもらったと思います。

事務次長の一つ一つの葛藤は、ささえるにのっての財産ですし、その事務次長に必死についてくスタッフ一人一人にも大変感謝しています。それぞれに考えて悩んでいる姿を見てると個々の成長を実感します。

来年はもっと多くの事務っ子の成長を楽しみにささえていきたいです。



医療系雑誌「BAMBOO」に
6回に渡り連載されました!

